

(第1会場コーディネーター)

それでは、簡単にごあいさつをさせていただきます。

まずもって、2日間傍聴いただいた市民の皆様、本当に長い間、ありがとうございました。こんなに熱心に聞いていただける方がいらっしまったことで、本当に、仕分けというのが、多分、枚方市さんが狙った効果が出ているんじゃないかと思っております。

それから、2日間、真剣に議論していただきました、枚方市さんが選任されました仕分け人の皆さん、本当に御苦労さまでした。長い間、ありがとうございました。

なかなか慣れない作業で本当に大変だったと思いますけれども、本当に市民の目線でいろんなご意見をいただけて、我々もちょっとハッとするようなご意見をいただきまして、これ、私も持ち帰って役立てたいと思っております。

事業仕分けということで、市職員の皆様いろいろなご説明をいただいたわけなんです、本当に長い期間をかけて準備していただいて、説明席に座っていただくと、思ったことの半分も言えなくて、少し議論がかみ合わない部分というのを感じられました。ただ、職員の皆さんも本当に熱心に説明していただくという姿勢は本当に感じられましたけれども、残念ながら、この作業に慣れていなかったという面が見られたのかなと思ひまして、その中で、具体的な数字を求めたときとか、その手法についての検討はされているかという問い合わせに対しての明確な回答がなかなかいただけなかったということで、逆に、仕分けの結果がぶれてしまったというものの中にはあったかもしれません。ただ、これは、今後検証する中で、おそらくはっきりしてくるものだと思います。

で、この事業仕分け、枚方市さんが開催されたということで、仕分けをする作業を目的にしたものではないはずですので、これから市の職員の皆さんは大変だと思われるのは、この出た結果に対して市民の皆様にご説明をしていただかなければならない立場になったということをご認識していただきたいと思ひます。

ですので、この結果をもとに、これから枚方市さんがより発展するように検討をされて、その成果を発表していただくのが事業仕分けの効果だと思ひます。そのためにこれだけの多くの仕分け人さんに集まってもらって議論していたのですから、それをぜひ効果として発揮していただきたいと思ひます。

この仕分けの結果は議論の結果ですので、いろんな厳しい結果も出たわけなんです、是非これを今後の枚方市の市政に反映できるように、市民を初め職員の皆さんが頑張っていたければよりよい結果になるのではないかなと、私はご認識しております。

それでは、簡単ですけれども、これでごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

(第2会場コーディネーター)

第2会場のコーディネーターを務めさせていただきました岡田でございます。皆様本当にお疲れさまでした。

実際、市民の方々、ご覧になられていかがだったでしょうか。国の仕分けも、実際に行われているのは肅々と真剣に議論されているわけなんです、地方自治体、基礎自治体ですね、

より市民に近いところの仕分けということで、身近なところで実感もあり、また、意外と地味だったという感想もおそらくあると思います。

基礎自治体の行政って、本当に派手さとかそんなじゃなくて、コツコツまじめにやっていくものだ、私は、この事業仕分けにもそれが表れているんだと思います。

よかった点なんですけれども、まず、市仕分け人さんのレベルがすごく高かったと思います。すごくいい議論を仕分け人の中でできました。それは一番感じた光景です。

また、職員の方々に、ご説明いただいた中でも、本当にいろいろ状況が分かっておられる、現場のことも分かっておられて説明を真摯にいただいた職員さんもいらっしゃいました。で、市役所って、民間企業と違いまして、よりベストな方法が取ればいいんですけども、果たしてそれがAという人にベストではあるけれども、Bという人にはベストとは限らないんですね。そういったいろいろなベクトルを組み合わせ、最善のところの行政をやっていかなければならない。でも、そればかりをやってそれに慣れてしまうと、場当たりの行政になってしまう恐れもあります。

なので、一番本当にあるべきベストな選択肢は何かっていうことを常に把握しつつ現場にあわせて現実モデルの行政を行っていかなければならない。で、私たち仕分け人は、そういったベストな、本来、そもそも論と言いますけれども、それが何であるかということにまず気付いていただきたいということを念頭に、それが役割であるというふうに認識して、いつもやっています。

その他、あとちょっと残念だった点が、事業選定の段階が残念だったなと思います。もう少し議論が広がるような事業を選んでいただきたかった。本来であれば、内部で議論をして改善していただくべき事業も多々ありました。

そういったことを、結果についてですが、廃止がいくつか、廃止というか不要はいくつか判定結果として出ているんですけれども、これは、特に成人祭はたちのつどい事業なんですけど、成人を祝うということ、目的は認めています、正しいと思っています。しかし、そのアプローチ、手段として、一からもう一度見直した方がいいということで、あえて不要というふうにさせていただきました。その点は、この結論をセンセーショナルに扱わずに、一から議論をスタートするきっかけとしていただければ大変ありがたいと思います。といったところなんです。どうもありがとうございました。

(構想日本)

中村でございます。2日間お疲れさまでした。また、市民の皆さん、最後までご協力いただきましてありがとうございました。そして職員の皆さん、事業仕分けは事業を選ぶ、そして事業シートを書く、そして本番、そしてその後の対応。大変エネルギーを使いますよね。ストレスも張っていくと思うんです。で、大変お疲れさまでした。

そういうことなので、事業仕分けについては、出来る限り仕分けがいのあるものやりたいというのが私たちの思いです。で、今回、枚方市さんについては試行ということですね。そういうことで、そういうものを踏まえた事業選定が行われたものというふうに承知はしております。

ただ、この試行を通じて、こちらに概要の欄に書いていただいておりますが、限られた財源を有効活用するための改革改善へつなげるとともに、将来の健全な行財政構造の維持を目指す取り組みとして今回試行実施するものと位置付けをされております。ですから、今回、試行実施ということ踏まえて、来年度、できる限り本格的に、事業仕分けという手法を取るかどうかは別にしまして、本当に行財政構造の改革につながる取り組みをしていただきたいと願っております。

で、財政数値を見させていただくと、平成19年に608億あった税収が、21年、2年後には40億減っているわけですね。推計では、あと2、3年後にはさらに40億減ということが予測されております。で、急激な高齢化が進んで、今ままで納税者であった方がリタイヤされて、今度は税金で生活を支援してもらおう立場に変わりつつあるわけです。

特にこういう郊外型の住宅都市というのはその変化が非常に早く、急激に來ます。そういうことも踏まえて、これは職員の皆さんだけでなく、もちろん首長さん、そして議会の皆さん、そして市民の皆さん全体として、それをじゃあ国が救ってくれるのかというような甘い状況じゃございませんので、本当に市民の皆さん全体で、今後の枚方市のことを真剣に考えていただきたい。

そのきっかけとして、今回の事業仕分け、まあ、事業そのものは小さい事業でございましたが、そのあたりいくつか本質的なお話もやり取りも出たと思いますので、その考え方を踏まえて、本当の意味の行財政の構造改革に継続的に力強く取り組んでいただきたいというように思います。

2日間、ありがとうございました。